

音楽・図画工作・家庭・体育・ 書写・道徳・特別活動における 言語活動の充実 【図画工作】

最終更新日：2015年9月1日

【図画工作科 代表者】
美術教育講座
准教授
松久 公嗣

キーワード ・図画工作 ・言語活動

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

言語活動の充実は「生きる力」を育成する上で重要な現代的教育課題である。すでに文部科学省は「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」（平成23年10月）を公開し、言語活動の充実に関する基本的な考え方や言語の役割を踏まえた言語活動の充実について指針を提示するとともに、現職教員に対する指導の工夫・改善・充実に向けた支援策として、各教科別の具体的な指導事例を収集し掲載している。

事例集では、知識基盤社会の到来とグローバル化の進展など急速に社会が変化するなか、日本の社会や教育の状況を俯瞰して、現代の小学校教育に必要とされる言語活動の在り方が分かりやすくまとめられている。

では、すでに指針が示されて参考となる具体的な事例が収集されているなか、教育大学が担うべき言語活動の研究開発プロジェクトとはどうあるべきか。

本事業の趣旨にあるように、『各教科・領域の本質をふまえた「言語活動」のあり方を実践的に追究すること』が重要であり、「言語活動の充実に関する指導事例集」においても、図画工作科で培う感性や情緒に関連して、「言語の役割を踏まえた言語活動の充実」の内容を以下のように具体的に提示し、各学校の状況や児童の発達過程をふまえて言語活動を充実させることを求めている。

これらの指針を基に、図画工作科におけるコミュニケーションや感性・情緒の基盤となる言語活動について、体験を重視した実践的研究をおこなった。表現や鑑賞の各場面において、具体的な活動や指導法を工夫し、創造的な授業を開発した。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

「作品主義」と称される、技量の優劣によって評価されやすい活動とは異なり、本事業の授業実践において他人の目や評価を気にせず没頭することのできる具体的な活動や指導法として提示することができ、一定の評価を得たことは、冒頭に示した本事業の指針ならびに「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」で示される指針にも合致しており、図画工作科の本質に基づいたものとなった。

これらのことから、図画工作科における言語活動は、体験を重視した表現活動や感動を基礎として、そこから発生した新たな思考や判断のサイクルをサポートするものでなければならないと結論することができる。

教師は、児童の豊かな体験や感動を創造するためにも、図工室や教室等の学習空間を充実させて、児童と同様に授業内容を体験し、児童目線で授業方法を開発する必要がある。

ただ、多忙といわれる学校現場においてこれらの時間を確保するのは難しいと思われることから、今後も教育大学が各学校との連携体制を強化して、共通理解を深めながら教材開発と授業開発に貢献したい。

美術教育講座では平成27年3月に『図画工作・造形教材集 子どものための美術-Art for children-』を日本文教出版から発行した。これは、平成25年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラムの研究成果を基に、平成23～25年度概算要求特別経費プロジェクト成果と本事業の成果を融合したもので、本学開設科目「小専図工」の教科書として活用するとともに、学校現場の現職教員を教材研究や授業開発の側面から支援することを目的としている。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

福岡教育大学研究開発プロジェクト
「現代的教育課題に応える共同研究の推進」

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

松久公嗣, 笹原浩仁(図画工作)
梅野貴俊(図画工作:技術)
若木常佳(図工における言語活動:国語)
宗像市立玄海東小学校
田中一郎校長, 小野稔教頭
教諭:村山耕一郎, 今谷清行, 吉田由美